

□ 下記画像はデータにて無料でご提供いたします

ご希望の際は下記の事項をご記入の上、メールにて当館までご連絡下さい。折り返しご連絡致します。お手数おかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

※サルバドール・ダリ作品は著作権料が発生します。掲載をご希望される場合は別途ご相談ください。

(1) 使用希望作品番号 (2) 会社名 (3) 担当者名 (4) 連絡先電話番号 (5) 掲載媒体名・番組名 (6) 発行日・放送日 (7) 発行部数
担当 / 公益財団法人諸橋近代美術館 広報担当・久納(くのう) e-mail: s-kunou@dali.jp



ポール・セザンヌ
《林間の空地》1867年
油彩/カンヴァス

アルフレッド・シスレー
《積み藁》1895年
油彩/カンヴァス

マリー・ローランサン
《ダンサー》1928年
油彩/カンヴァス

カミーユ・ピサロ
《ポントワーズ丘陵、牛飼いの少女》1882年
グアッシュ/紙



□ メディア掲載における読者・視聴者プレゼント用招待券のご提供

情報をご掲載いただきました媒体各社様へ招待券(5組10名様)をご提供します。ご希望のご担当者様はメールにて当館までご連絡下さい。



諸橋近代美術館 morohashi museum of modern art

取材や記事掲載にご協力賜りますようお願い申し上げます。
お問い合わせ：公益財団法人諸橋近代美術館 広報担当・久納(くのう)
e-mail: s-kunou@dali.jp tel:0241-37-1088 fax:0241-32-3332
〒969-2701 福島県北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093番23
公式ホームページ <https://dali.jp>

ミュージアム・ワークス
Museum Works
— みんなの知らない美術館
2023.7.15 sat – 11.12 sun

展示だけではない
知られざる美術館の裏側を
ご紹介いたします。

美術館の主要な5つの役割として「作品収集」「展示」「調査研究」「教育普及」「保存」があります。その中でも「保存」は美術作品を後世へと守り継ぐための大切な役割です。しかしながら、あまりスポットライトが当たることはありません。

本展覧会では普段知られていない美術館の役割に焦点をあて、諸橋近代美術館における修復や保存の事例を紹介します。作品の「保存」と「公開」という、一見相反する要素をどのように両立させているのか、知られざる美術館の努力と工夫をご覧ください。

展覧会	ミュージアム・ワークス —みんなの知らない美術館
主催	公益財団法人諸橋近代美術館
会期	2023年7月15日(土) ～11月12日(日) 〓会期中無休〓 (121日間)
会場	諸橋近代美術館 福島県耶麻郡北塩原村大字松原字 剣ヶ峰1093番23
時間	9時30分～17時00分 (入館は閉館時刻の30分前まで)
観覧料	一般 1,300円(1,000円) 高校・大学生 500円(300円) 〓中学生以下無料〓

※()は20名以上の団体料金。他、教育施設対象の観覧料免除制度あり(要事前申込)
※感染症対策に伴い団体受入れを見合せている場合がございます。事前にお問合せ下さい。
※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳のご提示で所有者と付添い者1名は無料

※諸事情により会期・日程・内容が一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。



展覧会構成

第1章：構造と材質

そもそも美術館に収蔵されている作品とはどういったものなのか。一口に作品と言っても、油彩画、水彩画、版画、彫刻など様々な技法で作られています。それぞれの作品を構成する材質も、紙、布、木材、金属、油、鉱物など多種多様です。材質によって保存方法や、起きやすい損傷や劣化は異なるため、作品が何の材質でどのように構成されているのかを知ることは、作品を保存していくための第一歩となります。本章では、主に絵画作品に使用される絵具の原料の展示や、赤外線や紫外線



絵の具の原料

線といった特殊な光を利用して作品の構成を調べる科学的調査についての展示を通して、美術作品を材質や構造という視点からご紹介します。

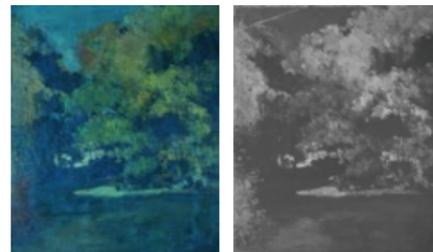
ポール・セザンヌ《林間の空地》1867年
油彩/カンヴァス



ペインティングナイフの跡、
絵具の混ざり



顕微鏡写真：絵の具が塗られていない部分



紫外線写真

赤外線写真

第2章：展示と修復

作品が劣化する原因には、天災や人的事故、急激な温湿度の変化、光、虫やカビの被害などがあります。そのような被害を未然に防ぐために、美術館では、温湿度を徹底的に管理し、スポットライトの明るさの調整を行なっています。また、作品の変質を最小限にするために、展示室内へ持ち込むことのできる物品を制限し虫やカビが発生する要因を取り除く様々な工夫が行われます。しかし、経年劣化によってやむを得ず損傷してしまった作品については、専門家が作品の状態を細かく調査し、それぞれ



毛髪式温湿度記録計

の作品に合った修復を行います。本章では、諸橋近代美術館で実際に行なっている作品の展示環境を整える工夫や、過去の修復の事例についてご紹介します。

アルフレッド・シスレー《積み藁》1895年
油彩/カンヴァス



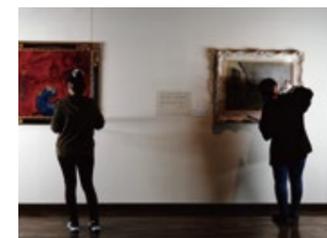
修復前：顔装の剥落片

修復後：剥落片の接着

第3章：保存の歴史

近年の美術館では、文化財IPM(Integrated Pest Management: 総合的有害生物管理)が重要視されています。これは、虫やカビなどの被害が発生してから対処するのではなく、被害が発生しにくい環境をつくり、日々の点検で異変の早期発見を行うという考え方です。この考え方は日本において古くから根付いており、東大寺の正倉院では蔵などに納められていた衣類や書物、道具などを日光に当てたり風を通したりする曝涼(虫干し)と開検(点検)が8世紀末の奈良時代から行われていたという記録が残されています。本章では、古来の保存の工夫である曝涼にならない、諸橋近代美術館で長いこと展示の機会がなかった作品たちを一挙にご紹介します。また、美術館の重要な仕事の一つである作品の「点検」について、使用する道具や一連の流れも併せてご紹介いたします。

点検風景



点検道具



古くからの
日本の曝涼にならない
展示機会が少ない
作品たちを
一挙に展示！



マリー・ローランサン
《ダンサー》1928年
油彩/カンヴァス



カミーユ・ピサロ
《ポントワーズ丘陵、牛飼いの少女》1882年
グアッシュ/紙

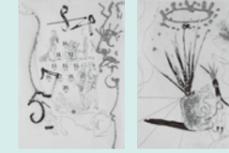
サルバドール・ダリ
《カサノヴァ》
1967年
エングレーピング/紙



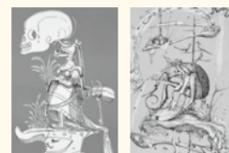
サルバドール・ダリ
《シュルレアリスムの24のテーマ》
1977-1978年
カラーリトグラフ/紙



サルバドール・ダリ
《黄色い恋》
1974年
ドライポイント、エングレーピング/紙



サルバドール・ダリ
《ガルガンチュアとパンタグリュエル》
1973年
カラーリトグラフ/和紙



展示の一部(モノクロ図版) ※実作品はカラーです ※展示作品が変更になる場合がございます